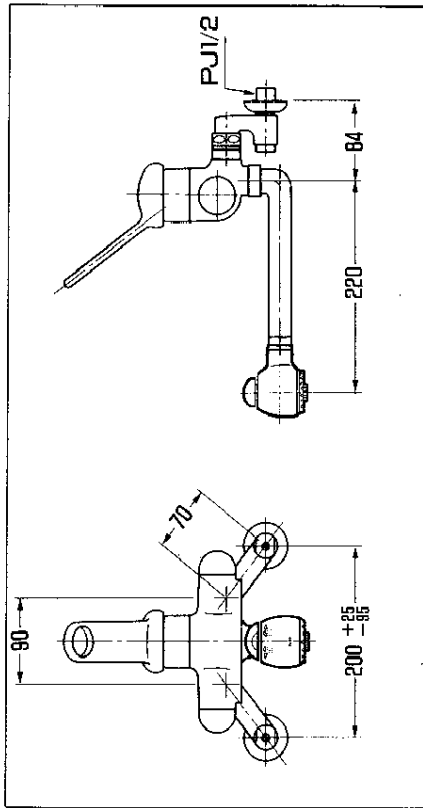


f SERIES シングルレバー混合栓取付説明書

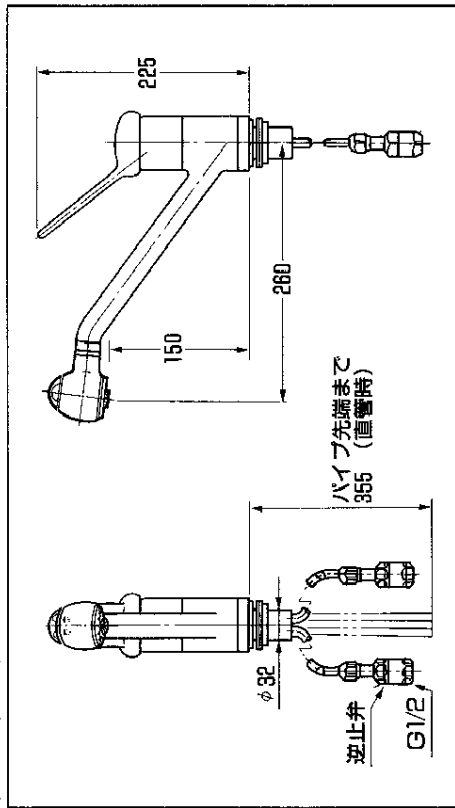
製品の機能が十分発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完成図

TK280R・TK280RZ
(一般用) (寒冷地用)



TK281R・TK281RZ
(一般用) (寒冷地用)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水压

(1)瞬間型給湯機と組合わせる場合

最低必要水压……………(表参照)

給水圧力

最高水压……………7.5kgf/cm²

器具入口部における最低必要水压(kgf/cm²)

給湯機の種類	号数	最低必要水压
従来タイプ	12号	A+2.3
TOTO カスタム制御	10号	1.1
	16号	0.9
	20号	1.0
TOTO トリコン制御 タイプ (トリコン・コンタクト・アクター-3)	16号	0.9
	20号	0.9
	24号	0.8
TOTO コマンド	32号	0.8
	16号 24号	0.8

注) TOTOCUSTOMシリーズで、給湯機の温度を60℃にした場合、

表中の数値より0.2kgf/cm²多く必要になります。

表中のAは給湯機の最低作動水压を示します。

(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(設定条件)

- レバーハンドルは全開
- 吐水は整流吐水
- 給湯機温度調節は最高温度に設定
- 吐水温度：42℃
- 給湯配管長さ：5m

a) 従来タイプの場合

- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
 - 水温の高い(25℃)夏期に着火させることを想定
- b) 比例制御タイプの場合
- 水温の低い(5℃)冬期に約8ℓ/minの吐水流量を確保するの

に必要な圧力とする。

(2)貯湯式温水器と組合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力…0.5kgf/cm²
最高圧力……………7.5kgf/cm²

(3)給水・給湯圧力はできるだけだけ同圧になるようにしてください。

2. 給湯に蒸気を使用しないでください。

3. 湯・水を逆配管しないでください。

なお給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

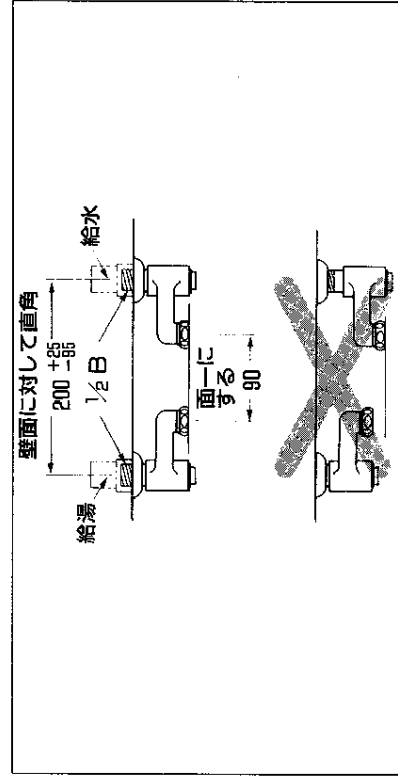
4. TK281R, TK281RZは水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。

器具の取付け

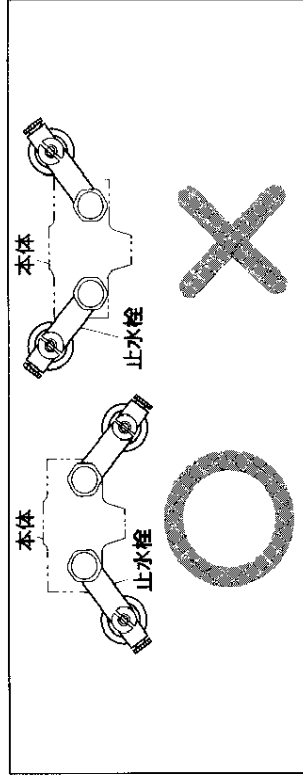
1. 給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け(TK280R, TK280RZの場合)

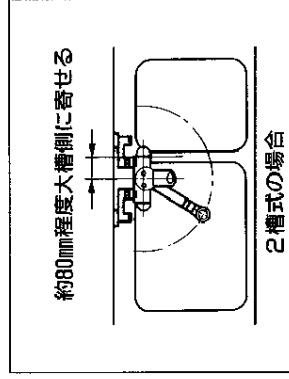


※ 寒冷地用TK280RZの場合は止水栓の取付位置が本体よりも上になると、水抜きができませんので必ず下になるように取付けてください。



※取付位置

- 混合栓は流しが一槽式の場合は槽の中央に取付けてください。
- 2槽式の場合は右図のように2槽の中央より約80mm大槽側に寄せるとより使いやすくなります。



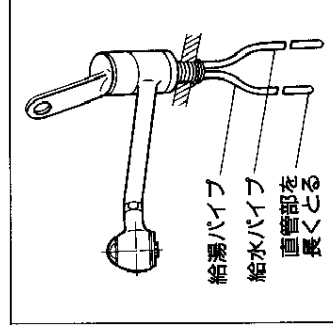
3. 混合栓本体の取付け

A. TK280R, TK280RZの場合

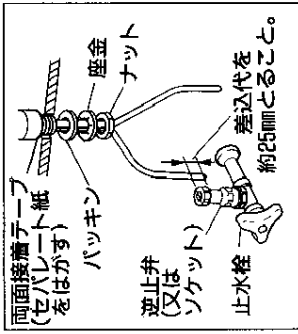
混合栓本体を止水栓に押しつけ、袋ナットで取付けてください。

B. TK281R, TK281RZの場合

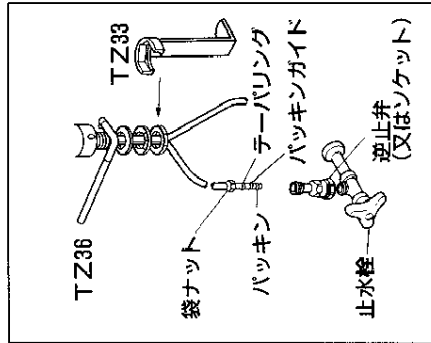
(1)混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し位置に合うように曲げて広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。



(2) 逆止弁（寒冷地用の場合はソケット）を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。



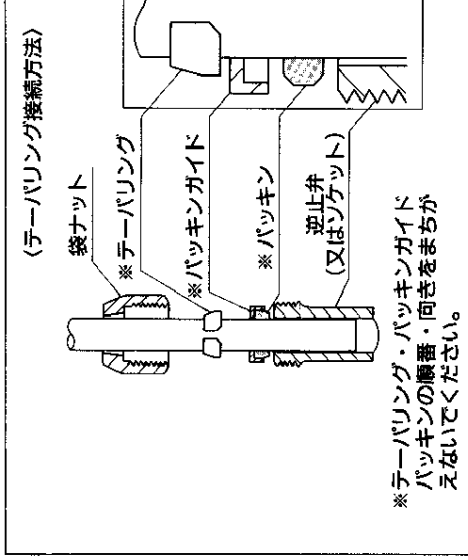
(3) 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、バックシンガイド、バックシン、の順に入れて、逆止弁（又はソケット）を差込んでください。次に逆止弁（又はソケット）を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売のナット締付専用工具（TZ33, TZ36）を利用して確実に締めてください。



※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れをとり、セパレート紙をはがしてください。

(4) 最後に給水・給湯パイプを逆止弁（又はソケット）に押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。

(5) 給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かさないよう確実に固定してください。



寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けておきます。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜方法をご指導ください。

- (1) レバーハンドルを中央位置（湯側・水側の中間）で下げる。
- (2) 水抜コックを開く。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

1. ふだんは柔らかな布でふき、ときどきミネシミン油やカーワックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
3. 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

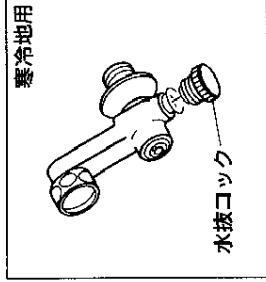
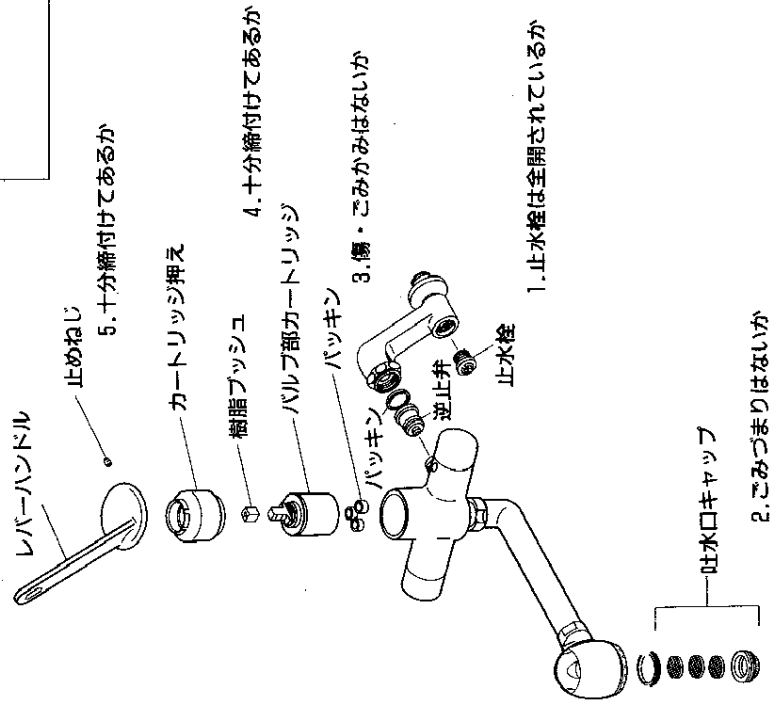
分解と点検

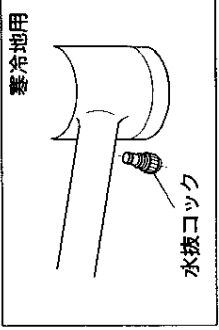
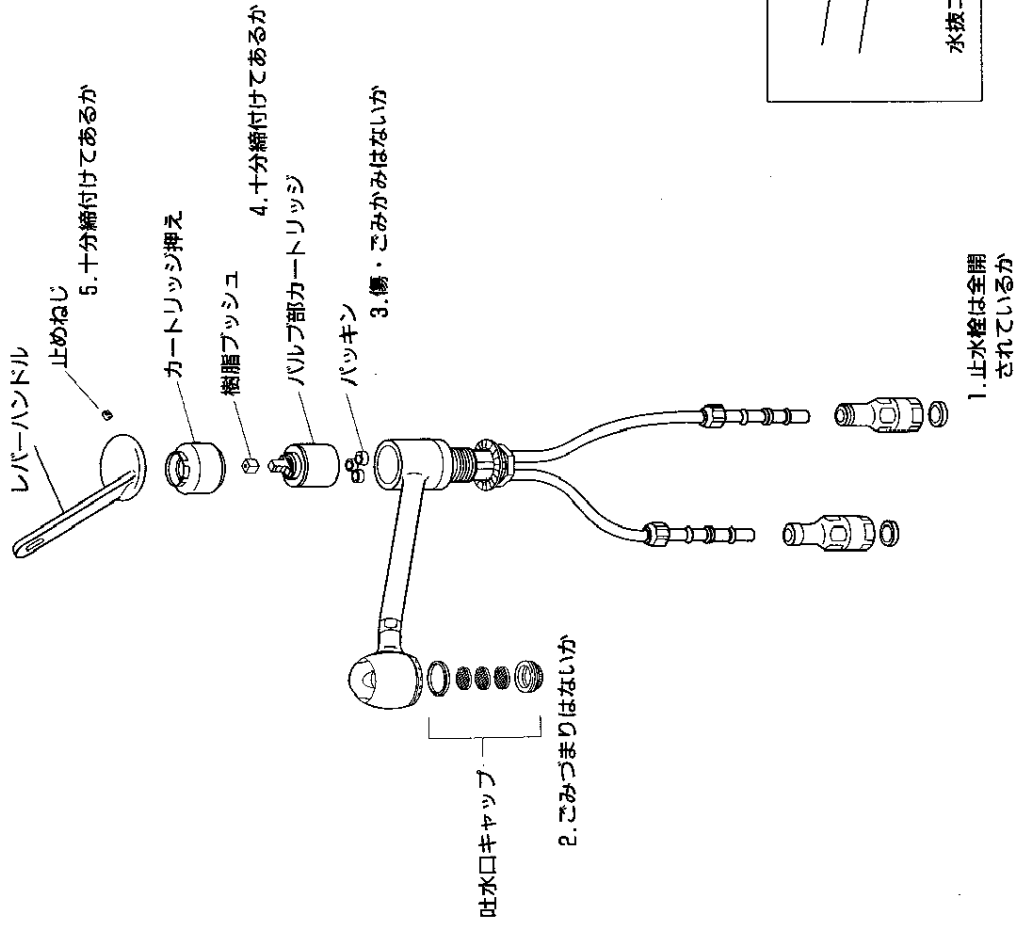
取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

ご注意

バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

現象	点検項目
吐水量が少ない。	1・2
水が止まらない。	3・4
ハンドル部から水が漏れる。	1・2
吐水温度不良。	5
ハンドルがガタつく。	5





別売

保持工具 (TZ36)	
縮付専用工具 (TZ33)	